34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

事業名：インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化
実施主体：国立看護大学校
対象国：インドネシア
対象医療技術等：②医療施設におけるマネジメント・人材開発：看護学生の教育を担当する実習指導者等を対象とした、老年看護学実習における効果的な指導スキルの向上に関する研修
④注目を集めつつある国際課課題：高齢社会への対応に関する研修

事業の背景

インドネシアの高齢化率は25%（2025年）に達すると予測され、高齢者特有の複雑な疾病病態の理解に加え、本人と家族の社会背景を把握しながら多様なケアを提供できる看護人材育成ニーズが高い。同国では、看護基礎教育の高齢者看護教育が2012年に整備され、2019年に病院等で看護師カリキュラムにも組み込まれたところである。一方、看護基礎教育でより高い実践力を学生が習得できるよう、臨床と教育の懸け橋となる臨床実習指導者が必要だが、同国ではその人材育成はまだ十分になされていない。
本事業は、インドネシア看護師協会（PPNI）の老年看護師協会（IPEGERI）をCounter Part（CP）とし、第Ⅰ期（2020-2022）の研修に参加した教育機関5カ所・医療機関4カ所と連携し、理論とエビデンスに基づく高齢者看護学の実習指導者の指導スキルの向上を目的とした第Ⅰ期事業を継承する。第Ⅰ期事業研修員10名の所属機関及び、事業内研修を看護師免許更新の研修として承認しているインドネシア看護師協会（PPNI）から、質の高い高齢者看護人材育成の支援要請がある。

事業の目的

本事業は、インドネシアの看護基礎教育における高齢者看護学実習の臨床実習指導者（以下、プリセプター）が実習指導能力強化の研修を受けることで、指導能力を向上させることを目的とする。臨床に精通したプリセプターが教育理念を理解することで、学生に質の高い指導を教授するだけでなく、臨床と教育の乖離を是正する役割も担い、結果として高齢者看護実践能力を備えた看護師が育成され、高齢者ケアの質が改善される。

1

2023（令和 5）年度の、「インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化」について発表します。

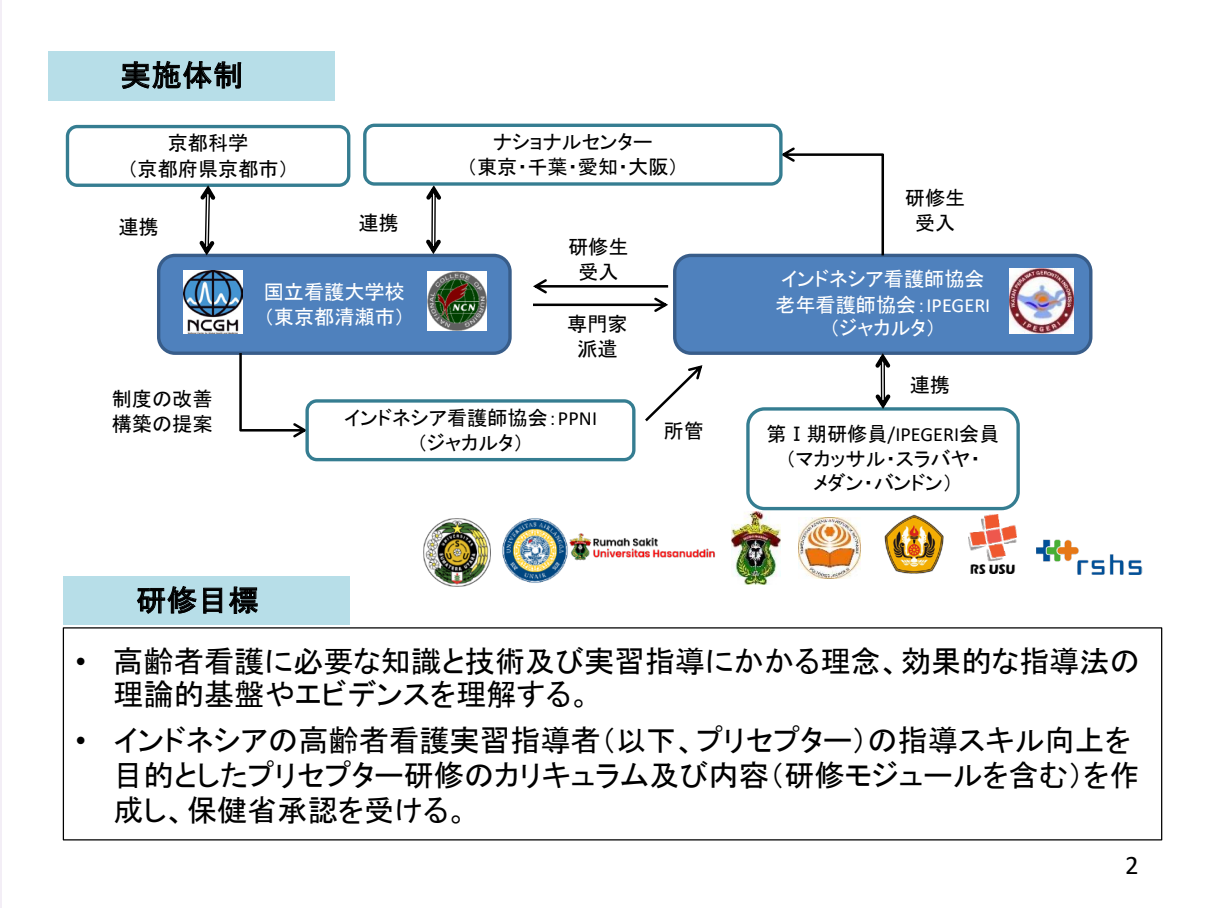
対象医療技術等は、「医療施設におけるマネジメント・人材開発」で、具体的には看護基礎教育の実習を担当する実習指導者等を対象とした、老年看護学実習の効果的な指導スキルの向上に関する研修です。また、「注目を集めつつある国際課題」では、高齢社会への対応に関する研修という位置づけです。

本事業の背景です。インドネシアの高齢化率は 2050 年までに 25%に達すると予測されている中、高齢者特有の複雑な疾病病態の理解に加えて、本人と家族の社会背景を把握しながら多様なケアを提供できる看護人材へのニーズが高い状況にあります。同国では、看護基礎教育における高齢者看護教育が 2012 年に整備され、2019 年に病院等で看護師カリキュラムにも組み込まれたところです。その一方で、看護基礎教育では、より高い実践力を学生が習得できるようにするため、臨床と教育の懸け橋となる臨床実習指導者が必要とされますが、インドネシアではその人材育成はまだ十分になされていません。

本事業は、インドネシアの看護基礎教育における高齢者看護学実習の臨床実習指導者（以下、プリセプター）が実習指導能力強化の研修を受けることで、指導能力を向上させることを目的とします。臨床に精通したプリセプターが教育理念を理解することで、学生に質の高い指導を教授するだけでなく、臨床と教育の乖離を是正する役割も担い、その結果として高齢者看護実践能力を備えた看護師が育成され、高齢者ケアの質が改善されることが期待されます。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校



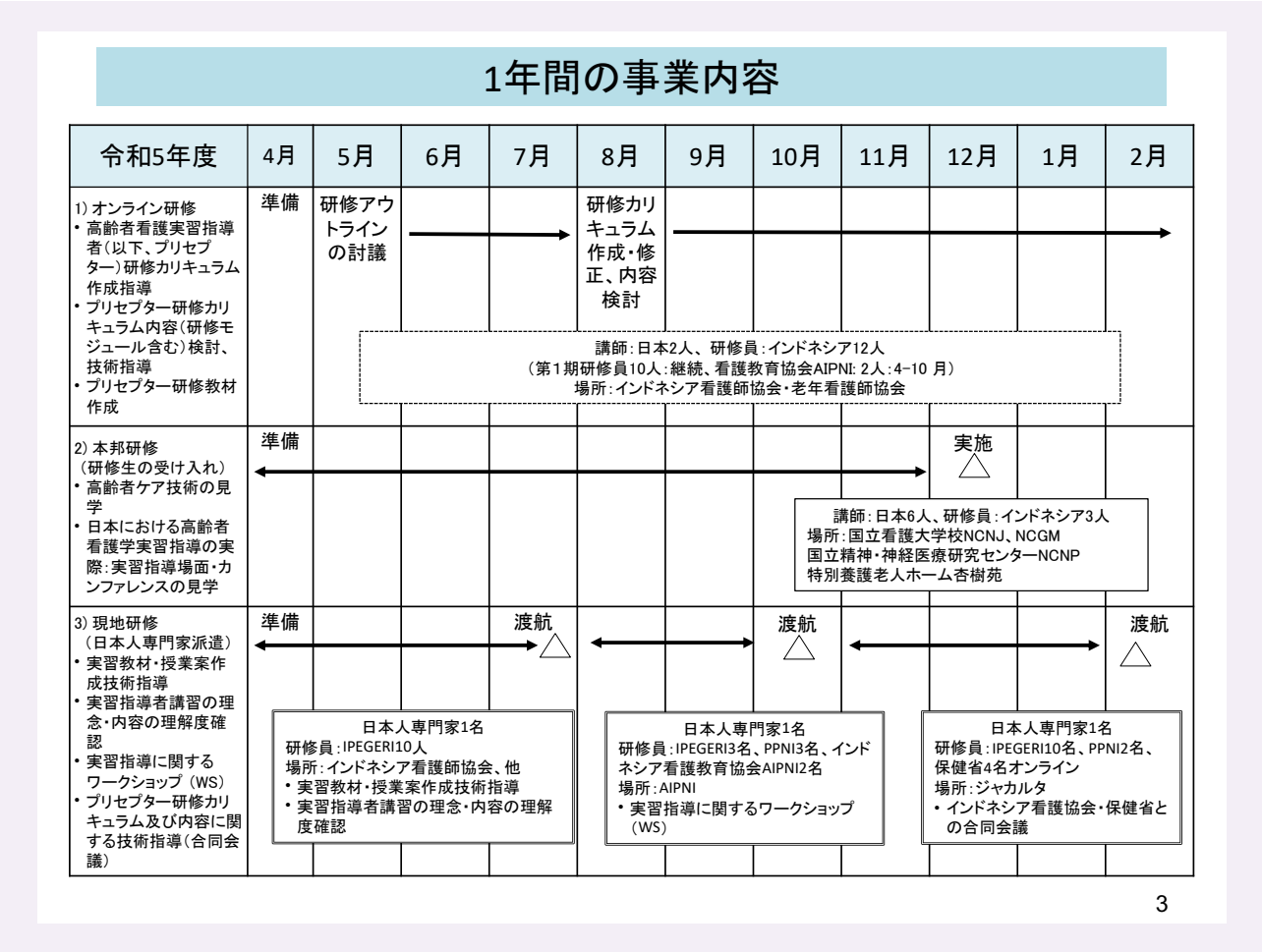
本事業は、カウンターパート（CP）をインドネシア看護師協会高齢者看護部会として、5 つの教育機関（大学・ポリテクニック）と 4 つの関連実習病院の計 10 機関に所属する IPEGERI メンバーがコアなメンバーとなっています。

インドネシア看護協会は、IPEGERI を所管しており、また、看護師を対象とする研修機関として保健省承認を受けていることから、本事業内で実施するプリセプター研修の作成過程において IPEGERI にテクニカルアドバイスを提供したり保健省との橋渡しをしたりするする役割を担っています。

本事業の研修目標は、高齢者看護に必要な知識と技術及び実習指導にかかる理念、効果的な指導法の理論的基盤やエビデンスを理解すること、インドネシアの高齢者看護実習指導者（以下、プリセプター）の指導スキル向上を目的としたプリセプター研修のカリキュラム及び内容（研修モジュールを含む）を作成し、保健省承認を受けることの 2 つでした。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校



今年度の事業内容の概要です。1.　オンライン研修、2.　本邦研修、3.　現地研修を実施しました。

1.　オンライン研修

オンライン研修は概ね月 1 回、IPEGERI メンバーである研修員 10 名全体で行い、プリセプター研修カリキュラム作成にかかるテクニカル・インプットのほか、事業の方向性の検討を行いました。それ以外に、インドネシア看護師協会や保健省の関係者を招聘した研修や、カリキュラム内容の単元ごとの小グループでの研修も、計 8 回実施しました。

2.　本邦研修

本邦研修は、12 月 4 日～ 11 日の 1 週間、研修員 3 名に対して実施しました。日本における高齢者ケアの実際や、高齢者看護学実習指導の実際を見学し、効果的な実習指導方法を学びました。帰国後に、本邦研修中に実習指導場面で活用した患者の全体像を理解するための「関連図」作成を、研修カリキュラムにも取り入れる方針を検討しました。

3.　現地研修

8 月と 2 月には、日本の事業責任者・副責任者が現地に渡航し、対面での研修やワークショップを開催しました。8 月の渡航では、保健省・教育省・看護師協会の関係者に研修プログラムの方向性をプレゼンテーションし、テクニカル・アドバイスを受け、10 月の渡航時はプリセプターの要請にかかるワークショップを実施しました。こうした研修の積み重ねで、プリセプター研修のカリキュラム及び内容が十分に議論され、また洗練されていきました。2 月には、インドネシア看護師協会および保健省と合同会議を開催し、プリセプター研修カリキュラム、ならびにその内容について合議を図る機会となりました。プリセプター研修カリキュラムの最終化に向けた意見・助言を受け、3 月には保健省への申請書類の提出ができる見込みとなっております。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

2023年7-8月、10月、2月：現地研修

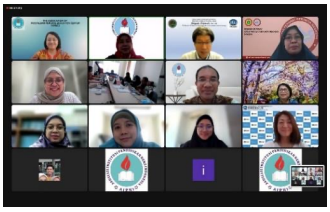
2023年7-8月渡航：
事業に関する関係者との協議

事業に関する保健省との会議

事業に関する看護師協会との会議

2023年10月渡航：
事業に関する関係団体とのワークショップ

事業に関する老年看護協会IPEGERIIとの会議



看護教育協会との（ハイブリッド）ワークショップ

2023年2月渡航：
インドネシア保健省・看護師協会との合同会議：
老年看護学実習の臨床指導者研修カリキュラムの最終調整合議

ジャカルタ市内で事業研修員とハイブリッドで開催した、保健省、看護師協会との合同会議の様子

上記合同会議（対面）参加者

4

2023 年 7 月末～ 8 月初頭の渡航では、日本人専門家 1 名がインドネシアの CP 大学・学校・病院および保健省・教育省・看護師協会等を訪問し（またはオンライン会議）、事業展開に関する協議を行いました。

2023 年 10 月の渡航では、日本人専門家 1 名が、インドネシア老年看護師協会 IPEGERI ならびに看護教育協会 AIPNI との会議とワークショップを行い、実習指導者研修の相互の国の状況について情報交換し、また事業の詳細を協議しました。

2023 年 2 月には、日本人専門家 1 名がインドネシア看護師協会および保健省との合同会議に参加し、本事業で作成している臨床指導者研修カリキュラムの最終調整と合議を行いました。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

2023 年 12 月 4 日～ 11 日の 1 週間、本事業の研修員代表 3 名（老年看護協会長、看護大学教員、病院看護師）の本邦研修を行いました。また、日本看護科学学会学術集会の交流集会において、本事業の展開成果についても発表を行いました。これらの研修成果が、老年看護学実習の指導者研修のカリキュラム作成をはじめ、本事業研修員の今後の参考になることが期待されます。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

2024年度：実施予定「研修講師の養成プログラム(5日間・online)：
臨床実習指導者研修の研修講師養成カリキュラム
実習指導モデルを用いた老年看護臨床指導研修

カリキュラムの構成要素
- 目的、能力、カリキュラムの構造、学習成果の評価

A. 目標
- この研修を受講すると、参加者は基準に従った看護師向けの包括的なプリセプターシップモデルを備えた老年看護学の臨地実習指導者になることができる。

B. 習得が期待される能力：この研修の修了後、参加者は次のことができるようになる。
- 1. 臨地実習指導モデルを用いた臨地実習の概念・理念を説明する。
- 2. 臨地実習指導において対人コミュニケーションを実施する。
- 3. 臨地実習指導の計画と実施を行う。
- 4. 臨地実習の評価・評価を実施する。
- 5. せん妄のある高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。
- 6. 認知症高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。
- 7. 嚥下障害のある高齢者の症例において、老年看護師研修の研修技術を適用する。

実習指導者研修講師の養成：プログラム（5日間・online)の概要

日	概要	主な研修内容
1	開会式、ガイダンス、事前評価アンケート **実習指導：総論（講義）**	研修の心構え(Building Learning Commitment) 高齢者医療保健の政策指針と看護実習指導者研修 看護の質と安全の教育に関する基準、高齢者看護の倫理、職業倫理
2	**実習指導：各論（講義・演習）**	実習指導モデルを用いた臨地実習の考え方 実習指導の計画と実施（演習含む）、学習方法の選択 臨地実習の評価・評価方法（演習含む）
3	**実習指導：各論（講義）**	実習指導におけるコミュニケーション：理論・実践（演習含む） せん妄・認知症・嚥下障害のある高齢者のケアと学生指導（講義） 各症例の動画視聴について
4	**実習指導：各論：** **グループワーク・演習、症例検討、**	せん妄・認知症・嚥下障害のある高齢者のケアと学生指導（動画視聴、症例検討） 実習指導のロールプレイの課題
5	**実習指導：各論：** **グループワーク・演習、ロールプレイ** 事後評価アンケート、閉会式	せん妄・認知症・嚥下障害のある高齢者のケアと学生指導（指導のロールプレイ）

6

こちらが、今回作成された臨床実習指導者研修の研修講師養成カリキュラムです。

構成要素としては、研修の目的、目標、育成する能力、カリキュラムの構造、学習成果の評価法などが含まれています。

「A. 研修目標」と「B. 習得が期待される能力」について、具体的に挙げられています。

「B. 習得が期待される能力」の 1 ～ 4 までは、臨地実習指導者に必要な一般的な能力について学習するもので、5 日間のうち、主に前半の 1 ～ 3 日間で学習します。5 ～ 7 は、高齢者に多くみられる症状・徴候のうち、せん妄・認知症・嚥下障害を例として、症例検討や具体的なロールプレイを行うものです。5 日間のうち、主に後半 3 日目途中から 5 日目まで学習します。5 日目は、全体を統合した学びとなるよう、症例をもとにした学生指導のロールプレイが組まれています。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	1)オンライン研修（対象：第Ⅰ期研修員10名）： • 実習教材・授業案が作成される。 • 「プリセプター実習指導能力強化の研修」について、80%以上の項目・到達度で理解する。 2)本邦研修（対象：第Ⅰ期研修員10名）： • 高齢者ケア技術*の理解：プレテスト・ポストテスト得点が10%向上する。（*高齢者の特徴のアセスメント、せん妄・認知症・フレイルなど高齢者特有のセスメントの指導技術） 3) 現地研修（対象：第Ⅰ期研修員10名）： • 看護教員4名、プリセプター看護師4名、インドネシア看護協会PPNI老年看護部会IPEGERI1名 • 「プリセプター実習指導能力強化の研修」で80%以上理解	1)オンライン研修 • 第Ⅰ期研修員10名が「プリセプター実習指導能力強化の研修」の講師となる。 2)本邦研修 • 第Ⅰ期研修員10名が実習教材・授業案作成に係る要項を作成でき、「プリセプター実習指導能力強化の研修」への活用を検討する。 3)現地研修 • 第Ⅰ期研修員10名が「高齢者の特徴のアセスメント」、「せん妄・認知症・フレイルの他、高齢者特有のフィジカルアセスメント」の指導技術に関する研修の講師となる。	• 本研修を経て実施される「プリセプター実習指導能力強化の研修」が、インドネシア看護協会や同国看護教育協会に認定され、研修が継続される。 • プリセプター（臨床実習指導者）の指導能力が向上し、高齢者ケアの質が改善する。（老年症候群に関する統合的アセスメント力とケア能力、がん・脳卒中患者の合併症等の早期発見・ケア）能力が向上する）。 • インドネシア看護師の高齢者看護実践能力向上で、長期的にインドネシア高齢者の健康寿命の延伸およびQOL向上に資する。
実施後の結果	1) オンライン研修参加者 • オンライン研修：インドネシア看護師協会IPEGERIとの会議34回（研修員10名）、のべ246名 • オンライン研修：カリキュラム単元別6回、研修員各2名 • 保健省MoHとの研修 1回、12名 • 教育省MoEとの研修 1回、7名 2) 本邦研修参加者 • 3名（看護教員1名、プリセプター看護師1名、インドネシア看護師協会・老年看護師協会IPEGERI 1名）12月4日～12月11日：教育・医療・福祉施設の視察 • 第43回日本看護科学学会参加；12月9－10日、於下関会場で自由集会開催、インドネシア人プリセプター等　192名オンライン参加、参加証明書発行 3) 現地研修対象者 • 8月（専門家1名）　IPEGERI 10名 • 10月WS（専門家1名）IPEGERI　3名、インドネシア看護協会PPNI3名、インドネシア看護教育協会AIPNI2名 • 2月合同会議（専門家1名）：インドネシア看護師協会PPNI 2名、MoH 4名オンライン、IPEGERI: 10名が参加	1) 研修員10名がプリセプター研修カリキュラムとモジュールを作成した。また、作成を通して研修講師となるための知識と技術の研鑽に繋がった。 2) 本邦研修参加者3名が、日本の高齢者ケアや実習指導の視察を通して、特に関連図（concept mapping）をの活用をプリセプター研修モジュールの一つとして取り入れた。 3) 8月に医療者対象の全研修が保健省承となったため、当初の計画を変更し、プリセプター研修カリキュラム（Jan_Kurikulum_Pelatihan bagi Pelatih Pembimbing Klinik Keperawatan Gerontik）及びモジュールを作成した。保健省承認の申請を3月に行っている。 • 高齢者ケア技術のビデオ教材（認知症・せん妄・嚥下障害）を研修員と協働して制作中で、それぞれのケースシナリオとデモビデオが完成した。ビデオ制作は、医学・看護学教材作成の専門知識・技術をもつ京都科学に委託した。 • プリセプター研修での利用を提案した嚥下/誤嚥のメカニズムの理解のための模型の購入について、インドネシア大学）が日本企業（坂本モデル）から購入検討中、現地販売店担当者に繋げた。	1. 本事業で実施するプリセプター研修が、インドネシア看護協会のレビューを経て、インドネシア保健省に承認され、標準化された同研修が、IPPNIのもとで継続的に実施される。 2. 高齢者ケアの知識・技術及び指導能力を有するプリセプターがインドネシア全土で育成・輩出される。 3. 看護学生が、育成されたプリセプターから教育を享受することで、高齢者の老年症候群に関する統合的アセスメント力とケア能力を有する看護師が育つ。 4. インドネシアの看護師の高齢者看護実践能力が向上することで、長期的にインドネシア高齢者の健康寿命の延伸およびQOL向上に資する。 5. インドネシアの教育機関・医療機関等が、本事業で紹介した日本企業の模型・モデル・動画教材等を現地の人材育成に活用する。 7

こちらは、今年度の成果指標とその結果です。主に、オンライン研修と、本邦研修、そして現地研修に分けて記載していますが、これらは事業の中で有機的につながって活動展開してきました。

まず、オンライン研修については、第Ⅰ期の研修員 10 名が臨床実習指導者（プレセプター）となることを計画していました。しかし、年度途中の夏に、すべての医療者対象の研修が保健省承認が必要となるという政府の方針発表がありました。そのため、CP であるインドネシア看護師協会・老年看護師協会 IPGERI の協力を得ながら、関係する保健省・教育省とも会議を行い、また研修カリキュラムおよびモジュールの作成、研修教材、動画教材の作成準備を鋭意進めました。

本邦研修は、予算の関係上、第Ⅰの研修員 10 名のうち代表 3 名を互選で決定してもらいました。1 週間の本邦研修では、教育・医療・福祉施設での講義、実習指導の視察、高齢者ケアの視察を行いました。また、学会学術集会の交流集会やポスター発表に参加し、本事業の昨年度までの活動成果を発表しました。本邦研修の成果の一つとして、複雑な状態の高齢者を理解するためもよく使われる「関連図」作成を、インドネシアの実習指導者研修でも取り入れることとなったという点が挙げられます。

現地研修としては、日本人の専門家 1 名ずつ（計 2 名）が時期を選んで渡航し、現地での対面の会議や、オンライン・ハイブリッドによって事業を効果的に進めることができました。7 ～ 8 月には関係省庁との会議、10 月には看護教育協会 AIPNI を交えた実習指導者養成のカリキュラム概要、実習指導者の在り方・理念（preceptorship model）について情報・意見交換を行いました。2 月には、実習指導者の研修に関する最終的な指導案、カリキュラム案・モジュール案の詰めの確認作業を行いました。

これらの取り組みを通して、インパクト指標にある通り、実習指導者の実践力・指導力の向上につながる研修の標準化と、そこから学生の理解度向上と実践力の高い看護師の輩出が期待されます。さらに、看護師の高齢者看護の実践力の更なる向上により、高齢者の健康寿命や長期的な医療アウトカムへの好循環が生じ、高齢者の QOL 向上に資するものと考えられます。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

今年度の対象国への事業インパクト

健康向上における事業インパクト

● 事業で育成した保健医療従事者（延べ数）
- 日本で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：3名
- 対象国で研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：10名
  - 研修員10人の内訳概要：インドネシア看護師協会・老年看護師協会：1名、インドネシア全国の大学・学校の教員・管理者：5名、病院の看護師・管理者：4名
  - 定例会議計34回開催、参加延数は研修員246名、日本の講師・専門家22名

- 研修（講義・実習等）を受けた研修員の合計数：37名
- 過去に研修を受けて講師・専門家となった現地の講師・専門家の合計数：4名
  （2020-22年度から研修員だった者が「講師・専門家」としてワークショップで講演）
- その他：
  - 老年看護学実習の臨床指導者研修の講師研修カリキュラム・モジュール最終案が具体化し、看護師協会のレビューの後、保健省承認に向けて申請中である。
  - 高度な高齢者ケアおよび実習指導の具体的理解を促すための、認知症・せん妄・摂食嚥下障害のある高齢者のケア技術、実習指導技術を学ぶ動画シナリオ等を作成した。
  - 次年度事業に向けて、教材が完成し、カリキュラム・モジュールの承認を経て老年看護学実習指導者を対象とした研修を行う。

8

今年度の対象国の健康向上における事業インパクトとして、事業で育成した保健医療従事者数を挙げます。元々、本事業への関心が非常に高い 10 機関が選ばれ、計 10 名の研修員が選ばれています。研修員は積極的に所属機関と連携し、本事業展開を担ってきました。本邦研修は合計 3 名、対象国での研修（講義・実習）は、研修員との全体会議が計 34 回、延べ 246 名参加したことになります。

その他、成果としましては、老年看護学実習の臨床指導者研修の更新研修カリキュラム・モジュール案を作成したこと、インドネシア看護師協会のレビューを経て、保健省承認に向けた申請プロセス中にある点が挙げられます。さらに、高度な高齢者ケア、例えば嚥下障害のアセスメントツールの使い方や、実習で学生がそのような患者を受け持った際の、実習指導の技術を学び、実際に役立てられるような動画教材作成を次年度目指しており、そのためのシナリオを今年度作成しました。

次年度は、これらのカリキュラム・モジュールが承認され、教材が完成して、実習指導者を対象とした研修の実施に漕ぎつけることが期待されます。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

これまでの成果

＊Webinar参加者にはインドネシア看護師協会の継続教育単位が認定された修了証を発行した。

（第Ⅰ期：2020-2022年度）

①研修員は、Web会議で日本・インドネシア双方の看護学教育制度、老年看護学実習の教授法、パンデミック下の取り組みや課題を相互理解した。2021年度には、実習教材に適する媒体、VRケースシナリオを検討し、2事例分のVR動画を作成した。2022年度は、そのVR動画を用いた模擬授業を展開した。

②活動成果発表Webinarは、2020年度：154名、2021年度：101名、2022年度：239名が参加した。2022年度は、VR教材を用いた模擬授業を、研修員の5教育機関・3病院で実施し、受講学生・看護師の理解度・認識として高難易度の理解度テスト得点率は授業前54.4%・後66.3%、一定の理解度向上が確認できた。受講者の9割以上が教材・授業に満足していた。

③研修員は、指導案作成プロセスの議論を繰り返すことで、事例設定やシナリオ展開、指導ポイント抽出等、熟練看護師の技術、学生への教材化を具体的に学びを深められた。

（第II期：2023年度）

①本研修を経て「老年看護学実習の指導者：プリセプターの実習指導能力強化研修」のカリキュラムを作成した。

②認知症・せん妄・嚥下障害のある高齢者の実習指導に関する教材ビデオを作成した。症例・シナリオ設定を研修員と協働・検討し、専門知識・技術をもつ企業に絵コンテ・デモ動画作成を委託した。次年度の現地撮影、編集、動画教材作成に繋げる予定である。

今後の課題

- 研修カリキュラム・モジュールの完成とともに、具体的な教材の中身（講義・演習の内容、進め方）について、研修員の支援が必要であり、引き続き助言・指導を行っていく必要がある。
- 動画教材作成のため、5月予定の現地撮影が円滑に進むよう、諸方面の調整が必要である。
- 本事業目的のインドネシアにおける看護学実習指導者の指導スキル向上には想像以上の時間と労力を要する。教育スキル向上研修の実装に関する促進・阻害要因を明らかにし、インドネシア看護師協会等と連携して事業終了後の波及や評価への関わり方を検討する必要がある。

9

これまでの成果として、第Ⅰ期の 2020 ～ 2022 年度は、対象国全国からの Webinar 参加者と課題やニーズ・対策を共有した後、実習教材に適する媒体やケースシナリオの検討を行い、VR 動画の 2 事例のケースシナリオを作成しました。作成した VR 教材を用いた模擬授業を教育機関・病院で行い、受講学生・看護師の理解度や認識を評価し、一定の理解度向上と高い満足度が確認できました。また、これらの活動成果を Webinar で発表し、100 ～ 200 名以上の参加が毎年ありました。受講学生・看護師の理解度は約 5 割から 6、7 割に向上しました。また、熟練看護師の看護技術と学生指導スキルを意識化し、学生に教える「教材化」の議論をしたことで、研修員の学びを深められました。

第 II 期の 2023 年度は、「老年看護学実習の指導者：プリセプターの実習指導能力強化研修」のカリキュラムがつくられ、保健省の承認待ちです。また、高齢者に多い認知症・せん妄・嚥下障害がある高齢者の実習指導に関する教材ビデオ作成を目指し、症例・シナリオ設定を研修員と協働・検討し、専門知識・技術をもつ企業に絵コンテ・デモ動画作成を委託しました。次年度の現地撮影、編集、動画教材作成につなげていく予定です。

今後の課題としては、研修カリキュラム・モジュールの完成とともに、具体的な教材の中身（講義・演習の内容、進め方）について、研修員の支援が必要で、特に引き続き助言・指導を行っていく必要があります。また、動画教材作成のため、5 月に予定している現地撮影が円滑に進むように諸方面の調整が必要です。

最後に、本事業目的のインドネシアにおける看護学実習指導者の指導スキルの向上には、今後も想像以上のさらなる時間と踏力を要すると考えられます。教育スキル向上研修の実装に関する促進要因・阻害要因を明らかにしていくことや、インドネシア看護師協会等と連携しながら、事業終了後の波及効果や継続的な評価への関わり方について、どのように本事業関係者が関わっていくことができるかについても、検討していく必要があります。

34 インドネシアにおける高齢者看護領域の臨床実習指導者の指導能力強化

国立看護大学校

将来の事業計画

医療技術「(高齢者)看護学実習指導スキル」の定着について

- 2020-22年度の研修では、老年看護学の授業・実習の指導スキル向上のための教材作成から始めた。授業案・教材作成のワークショップを複数回重ね、根拠に基づいた実習指導のあり方、評価の仕方、学生指導における看護技術の留意点の引き出し方等、具体的ノウハウが研修員の中に蓄積されていった。
- 研修の拡大として、ワークショップの経験を年1回のインドネシア全国やCP所属機関の他教員・実習指導者を対象にwebinarで実践成果を報告するよう依頼したことが好循環を生んだ。次の活動の事業費獲得、研修員メンバー拡大につながり、組織上司や同僚からも認められたことが研修員の動機付けにもなった。
- 模擬授業の実施に向けて作成した指導案や教材作成のノウハウを言語化・体系化して整理したことは、研修員の指導能力の向上、インドネシアの看護師の実践力・指導力向上にもつながることが期待される。
- 2023年度の事業では、医療者対象の研修が、保健省承認を必要とするようになったことに伴い、老年看護学実習の指導者研修の講師研修カリキュラム・モジュールを作成した。また、老年看護学実習における指導スキルの特徴や老年看護のケア技術を可視化する動画教材のシナリオ等を作成した。保健省に関連する要因は、「外的要因」ではあったが、研修準備を前に進める動機付けになっている。
- 今後に繋げて具体化が必要な出口戦略の考慮点は、以下の通りである。
- ①全国組織の制度化または国家の政策化：看護師協会等と引き続き連携し、保健省承認の看護師継続教育制度の一環とし、当該研修を組み入れた指導力・実践力を高めた看護師の確保が期待される。
- ②現地予算確保のため、政策者・組織トップの管理者にも事業の意義・効果を伝えていくこと、研修によって得られるメリットの可視化・数値化が必要である。
- これらを通して、看護基礎教育における実習指導の標準化がなされ、質の高い看護学生の輩出が可能となることで、本事業のインパクトとして、長期的な高齢者の医療水準の向上に貢献することが見込まれる。具体的には、高齢者の合併症・併発症の早期発見・対処または減少、日常生活自立度の維持、医療費・入院期間の短縮、ひいてはQOL向上、健康寿命の延伸に資する可能性がある。

10

将来の事業計画として、医療技術「老年看護学実習の指導スキル」の定着については、以下の通りです。

まず、2020-22 年度の研修導入時期は、老年看護学の授業・実習の指導スキル向上のための教材作成から始めました。授業案の作成や教材（事例・状況設定・VR 動画シナリオ）作成の討議・ワークショップを複数回重ねることで、根拠に基づいた実習指導の在り方、評価の仕方、学生指導における看護技術の留意点の引き出し方について、具体的なノウハウが研修員の中に蓄積されていきました。この研修の拡大の方向性として、このワークショップの体験を 1 年に 1 回のインドネシア全国または CP 所属機関の他の看護教員・実習指導者を対象とした webinar で成果報告・実践成果の報告を依頼しました。このことが好循環を生み、次の活動や事業費獲得、研修員メンバーの拡大につながっていきました。また、組織の上司や同僚等から認められ、研修員の動機付けにもなりました。また、模擬授業実施に向けて指導案や教材作成のノウハウを言語化・体系化して整理したので、研修医の指導能力の向上、ひいてはインドネシアの看護師の実践力向上にもつながることが期待されます。

2023 年度の事業では、医療者対象の研修が、保健省承認を必要とするようになったことに伴い、老年看護学実習の指導者研修の講師研修カリキュラム・モジュールを作成しました。また、老年看護学実習における指導スキルの特徴や老年看護のケア技術を可視化する動画教材のシナリオ等を作成しました。保健省に関連する要因は、「外的要因」ではありましたが、研修準備を前に進める動機付けになっていると考えます。

今後の 2024 年度事業に繋げて、具体化が必要な出口戦略の考慮点は、以下の通りです。

①全国組織の制度化または国家の政策化：看護師協会等と連携し、看護師の継続教育の制度等に反映することで、指導力・実践力を高めた看護師の確保が期待されます。

②現地予算確保のため、政策者・組織トップの管理者にも事業の意義・効果を伝えていくこと、研修によって得られるメリットの可視化・数値化が必要です。

これらを通して、看護基礎教育における実習指導の標準化がなされ、質の高い看護学生の排出が可能となることで、本事業のインパクトとして、長期的な高齢者の医療水準の向上に貢献することが見込まれます。具体的には、高齢者の合併症・併発症の早期発見・対処または減少、日常生活自立度の維持、医療費・入院期間の短縮、ひいては QOL の向上、健康寿命の延伸に資する可能性があります。